

農村ツーリズム展開方針

令和2年(2020年)8月17日
空知総合振興局

1 地域の現状

- 空知総合振興局は、北海道の中央部よりやや西方に位置し、東西約70km、南北約130kmに及ぶ広大な内陸地帯で、中央を石狩川が縦走し、南西部にかけて豊かな石狩平野が広がっている。季節風の影響を受けて冬は降雪量が多いため、道内屈指の豪雪地帯として知られている。
- 耕地面積は全道の約10%を占めており、豊かな水資源と広大な農地を活用し、全道一の作付を誇る稲作を主体にして、地域の特徴を活かし、小麦・大豆など土地利用型の畑作や野菜・花きなどの園芸を取り入れた多様な農業が展開されている。
- 農業体験や直売所、ファームレストラン、観光農園などの日帰り型の施設に加え、修学旅行生の受入などの滞在型の施設も多く、こうしたグリーン・ツーリズム関連の施設数は全道一である。
- 札幌圏と旭川圏の間に位置し、気軽に訪れることのできる観光圏として、年間約1,200万人の観光客が管内を訪れている。近年ではサイクルツーリズムや美しい風景と個性豊かな空知産ワインを味わうワインツーリズムで訪れる人が増えている。

2 地域の抱える課題

- 空知の人口は減少し続けており、平成30年1月1日時点の住民基本台帳調べでは、管内人口は30万人を下回っている。農業就業人口に占める20～50歳代の層も年々減少しており、高齢化率50%以上の集落数が道内で最も多く、労働力の確保が喫緊の課題である。
- 農業における人材不足は、一般的に労働力を多く投下する施設園芸作物等の生産減少だけでなく、稲作や畑作など広大な面積を利用する作物の生産減少にもつながり、耕作放棄地の発生など地域景観等への悪影響も懸念される。
- 教育旅行については、受入農家の高齢化等による受入戸数の減少により、ファームステイを希望する学校側の人数と合わなくなってきており、複数の市町で対応している。
- 一方、観光業では、観光客が夏季に集中する季節偏在や通過型観光地の傾向が強いことに加え、インバウンドの宿泊客が少ないなど、観光地としての知名度は低い状況である。

3 今後の展開方針

- 基幹産業である農業の生産力強化や関連産業の振興を図り、ワインや炭鉱遺産、グリーン・ツーリズムなど空知ならではの魅力を積極的に発信し、国内外との交流人口の拡大を図る。

【具体的展開】

- ワインや日本酒、地場産農産物など食の魅力を活かした食観光や、グリーン・ツーリズムやサイクリングなど地域資源を活かした体験型観光を推進する。また、日本遺産に認定された「炭鉄港」等の歴史や文化を地域資源として活用することで、空知の魅力を積極的に発信する。
- 教育旅行における受入農家の負担軽減に繋がるよう地域のお土産と連携を進め、地域資源の特色を活かした受入地域の活性化に向けた取組を推進する。
- 以上の取組を推進するため、国の農山漁村振興交付金（農泊推進対策、農山漁村活性化整備対策）等の事業制度を周知するとともに、同事業を活用して関係機関への助言・指導、地域の課題解決のためのセミナーや勉強会など必要な支援を行う。